

総務企画防災常任委員会行政視察報告書

柳 収一郎

○愛知県半田市

「マイレポはんだの概要と災害時における活用について」

【所 見】

昨今、全国的に予想を超えた風水害等により大きな被害を受けている自治体が増えている。こうした中でICTを活用し災害時における身近な地域の問題・課題などを素早くキャッチし対応することが市民サービスの向上に繋がるのではないかと関心をもって臨んだ。

まず、きっかけは平成25年4月、NHK「クローズアップ現代」で千葉市の取り組みが紹介され、それを基に半田市で検討を開始したのがはじまりのようだ。民間のアプリを利用して市民と行政がやり取りを仕方である。使用料を支払いしているが、毎月税別で通常版3万円、災害版7,500円で年間約50万円であり人的時間を考えると安いと思う。

過去5年間のカテゴリ別では、道路関係が全体の35.1%と最も多く、交通安全15.9%、水路12.0%と上位3つで63%となっている。これは、平常時の市民からの要望と似ているように思う。

また、半田市の対応部署別では、土木課59.4%、防災交通課16.4%、都市計画課11.9%となっており3課で全体の87.7%を占めており、足利市も実施した場合は、同様の数値になるのではないかと感じました。

最も多かった土木課職員には、マイレポ導入により投稿は増えているが、仕事量が増えているという認識はないそうである。このことは多分、市民と行政が直接やり取りできることにより理解・解決が迅速に行われているものと考えられる。

また、インターネットにより、24時間365日、問題・課題等を投稿できることやニックネームでの投稿もできることなど利点が大変あると思う。

迅速な対応が要求される災害時情報収集では、平成29年4月から導入運用をしている。道路の冠水状況、倒木などの写真と位置情報を、幅広く市民から提供してもらうことで、災害情報を共有し、迅速かつ的確な対応を支援する仕組みを作成しており、大変、災害時対応としては、必要なアプリと思い、足利市の幹部職員に検討をお願いした。

実は、この報告書は10月29日に作成した。10月12日・13日と台風19号により足利市も大変な被害を蒙り、今になってしまった。足利市も早期にこのような

アプリを導入し、災害状況把握と復旧に対応していかなければならないと感じた。

○愛知県高浜市

「市役所本庁舎整備事業について」

【所見】

市役所本庁舎の整備の問題は、足利市にとっても昭和49年4月供用開始である現庁舎は、耐震性がないため大きな災害時の対応ができるのか関心をもって臨んだ。

市役所の本庁舎を整備するにあたっては、過去、どこの自治体でも政争の具にされていたことを承知しており、特に計画をたて実施するまでの間の経緯を知りたかった。

昭和52年2月に竣工、築後40年が経過し老朽化による改修が未実施であったこと。しかも耐震性がないなど、災害時の防災拠点としての機能の確保、業務の継続ができない心配があったようだ。足利市と大変似かよっていると思った。

一番大切な部分である。過去、計画を立てるが首長が変わると計画も変わるという繰り返しが続いたようだ。有り勝ちなことである。

首長が変わるたびに計画が変わっては市民が混乱する、不味いと市議会は判断をし、「中長期計画」を作れ！と付帯決議をした。いろいろな建設的な意見があると思うが市議会としては、素晴らしい決議をしたと思う。

また、画期的と思われたのは、保有形態の見直しによる賃借やリース等を視野に入れた民間事業者のノウハウ・能力等を最大限活用した事業方式を考えたことである。支払コストの平準化もその一つである。

過去、すべての自治体が議会棟と一般庁舎の使用を区別して扱ってきたと思う。しかし、当市は、議会棟の会議室でも行政当局の会議で空いているときは、使用をしてもらっているようである。有効活用であり足利市も若干の使用はあるが、推進すべきと感じた。

更に画期的と感じたことは、議場を市民の多目的ホールとして開放している。実際問題としては、市民団体等の利用は少ないそうである。

このことは、現時点では会議室などは考えても良いことであると思うが、時期尚早であると感じた。

また、庁舎の面積を多くとっているのが、文書である。当市は文書量を半減させた。PDF化して、目標を5分の1とし、永年保存の実態を考慮して廃止にした。これは足利市でも早急に検討すべきと思った。